

ShonanBMW スタジアム平塚

改修検討会議報告書

平成27年3月

ShonanBMW スタジアム平塚改修検討会議

目 次

はじめに	1
1 ShonanBMW スタジアム平塚について	2
2 ShonanBMW スタジアム平塚改修の必要性	2
3 Jリーグ及び日本陸上競技連盟が求めるスタジアム基準	3
4 改修検討会議での検討内容	4
(1) ShonanBMW スタジアム平塚の課題について	4
(2) 課題解決のために	6
5 ShonanBMW スタジアム平塚改修の方向性	8
6 改修スケジュール	8
7 サッカー等専用スタジアムについて	9
8 おわりに	9
9 資料	10

はじめに

ShonanBMW スタジアム平塚（平塚競技場）は、日本プロサッカーリーグ（以下「Jリーグ」という。）湘南ベルマーレのホームスタジアムとして年間20試合程度実施されるほか、全国規模の陸上競技大会が実施されるなど、平塚市のみならず湘南、県西や県央地域の重要な位置を占める陸上競技場である。しかしながら施設改修から20年以上経過しており、施設の老朽化や設備が現在のニーズに対応できていない状況である。

また、湘南ベルマーレサポーターを中心とした ShonanBMW スタジアム平塚全面改修等の署名にあるように、競技だけで無く観戦環境の改善も求められている。

さらに、陸上競技施設として日本陸上競技連盟から第2種公認を受けている現在、この公認を維持しつつ大規模大会を実施するためには、日本陸上競技連盟が求める基準をクリアする必要がある。

これらを念頭に、ShonanBMW スタジアム平塚の将来あるべき姿を検討し、施設改修の方向性を示すため、平塚市、Jリーグ、サッカー関係者及び陸上競技関係者からなる ShonanBMW スタジアム平塚改修検討会議（以下「改修検討会議」という。）を組織し協議、検討を重ねてきた。これはその報告書である。



1 ShonanBMW スタジアム平塚について

ShonanBMW スタジアム平塚は、昭和62年に完成した陸上競技場である。開設当初は、スタンドは小規模なメインスタンドのほか、芝生のサイドスタンド及びバックスタンドであった。

平成5年のJリーグ発足時には、当時準会員であったベルマーレ平塚（現湘南ベルマーレ）が平塚競技場（当時）をホームスタジアムとしてJFLを戦っていたが、シーズン途中でスタジアム基準が明確化され、現行のスタジアムではJリーグの基準が満たされなくなり、早急な改修が必要となった。そこで平塚市では平成5年度にメインスタンド増設、サイド、バックスタンドの新設、照明塔の照度アップ及び芝の常緑化を行い、Jリーグ基準をクリアすることで、ベルマーレ平塚のJリーグ加入が認められた。

また、平成24年には、施設のネーミングライツ導入により ShonanBMW スタジアム平塚という愛称が使われるようになった。

現在の ShonanBMW スタジアム平塚は、J1リーグ開催競技場及び第2種公認陸上競技場である。

施設の運用面では、サッカー関係で現在、湘南ベルマーレ以外にJ3やなでしこリーグ開催のほか、大学、高校サッカーの大会も開催されている。

一方陸上関係では、全国規模の大会として、日本学生陸上競技個人選手権、秩父宮賜杯実業団・学生対抗陸上競技大会や、大規模大会として県陸上競技大会などのほか、大手企業主催から学校単位まで、小規模の陸上競技大会等も開催されている。大会が行われない日は一般利用が可能で、市内のみならず県内の利用も多い。

※ShonanBMW スタジアム平塚 利用の状況

項目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
球技（日）	58	43	40	42	42
陸上競技（回）	74	59	63	73	81
一般利用（人）	28,003	25,156	23,478	28,875	29,710

2 ShonanBMW スタジアム平塚改修の必要性

Jリーグ湘南ベルマーレの公式戦や、さまざまな陸上競技大会が行われている ShonanBMW スタジアム平塚だが、開設から30年近くが経過し直近の改修からも20年が経過しているため、施設の老朽化はもとより施設利用者のニ

ズに対応できない状況である。

また、Jリーグが求めるスタジアム基準が直近の改修時から大きく変わり、基準を十分に満たさない箇所や改修を行う必要がある箇所など、改善の指摘を多く受けている。

さらに、湘南ベルマーレのサポーター有志から、スタジアム改修を要望する34,012名の署名が寄せられ、スタジアム改修の期待は高い。

そこで、ShonanBMW スタジアム平塚の現状を検証し、その改修方法を検討することが必要となった。そのため平塚市だけでなく、スタジアムに関係する諸団体から広く意見を求め、将来の ShonanBMW スタジアム平塚のあるべき姿を検討するため、改修検討会議が設置された。

3 Jリーグ及び日本陸上競技連盟が求めるスタジアム基準

ShonanBMW スタジアム平塚においてJリーグや陸上競技大会を開催するにあたり、施設の基準が設けられ、これをクリアしていかなければ、公式戦や大会の実施に影響が出る。ここではそれぞれの基準について示す。

(1) Jリーグ（抜粋）

- ・スタジアム入場可能数・・・J1クラブ主管公式試合15,000人以上
・・・J2クラブ主管公式試合10,000人以上
- ・運営本部室及び警察・・・スタジアム内をコントロールできる運営本部室、警察指令室・消防司令室が備えられなければならない。
- ・観客エリア・・・・・・・スタジアム内各スタンドは、異なるセクターに分離することができるようしなければならない。
- ・医務室・救護室・・・・・・・医務室は維持運営を統括でき、救護室は主として場内の観客を対象とした応急措置ができる部屋を備えること。
- ・安全性・・・・・・・国内法令に基づき安全性が確保されたもの及びスタジアム所有者と協力し別に示す内容(P13表中I.07参照)を満たすよう努める。
- ・衛生施設・・・・・・・どの席からもアクセス可能な場所に男女別に明るく清潔で衛生的なトイレ設備を十分に備

えかつ車椅子席の近くには多目的トイレを備えなければならない。トイレは1,000席の観客に対し少なくとも洋式トイレ5台男性用小便器8台を備えなければならない。(P17表中I.1.2参照)

- ・スタジアム屋根・・・・・・・スタジアムの屋根は、観客席の3分の1以上覆われていることが推奨される。(P17表中I.1.3参照)
- ・車椅子席・・・・・・・・・車椅子介添え用の椅子、スロープ、観戦時の安全確保、ホームビジターの分け、雨にぬれず前列観客による視野妨げが無いようすることが望ましい。

(2) 日本陸上競技連盟(抜粋)

- ・トラック・・・・・・・・・8レーンか9レーンとする。
- ・走幅跳、三段跳の助走路・・メインスタンド側またはバックスタンド側ならびに砂場に6か所以上設置する
- ・棒高跳の助走路ならびに・・4か所以上に設置する。
ボックス
- ・投げ用芝生・・・・・・・十分に確保、多目的競技場の使用を意図するときは、延長最大106m×73mとする。
- ・構造物・・・・・・・・・レーン外側からスタンドまでは極力近づける。ただし、スタンドから競技全体が見まわせ、死角が生じないよう配慮する。
- ・その他施設・・・・・・・全天候舗装の補助競技場があることが望ましい。

4 改修検討会議での検討内容

先に示したJリーグ及び日本陸上競技連盟の基準を満たすべく、改修検討会議では、ShonanBMWスタジアム平塚の課題と方向性について検討を重ねてきた。

(1) ShonanBMWスタジアム平塚の課題について

今後Jリーグや陸上競技を行うに当たり、現在のShonanBMWスタジアム

平塚における課題を検討した。検討はJリーグ、日本陸上競技連盟公認競技場の規定をもとに行われ、次の課題が確認された。

ア Jリーグが求める運営諸室の不足

- ・審判更衣室にシャワー、トイレ室を設置
- ・記者会見室を含むすべての部屋を広く
- ・ミックスゾーンの確保（チーム更衣室が離れすぎている）
- ・施設を見回す場所に警備関係、放送関係室を確保

イ サイドスタンド

- ・観客が緊急に避難できる場所や安全に通行できる通路の確保
- ・傾斜が緩やかで、ピッチからも遠く観戦しづらい環境改善

ウ コンコース

- ・サイドスタンドにコンコースの設置
- ・コンコースの周回性

エ 観客席（全体）

- ・安心安全に観戦できる席、スペースの確保
- ・J1平均入場者数以上の席数確保
- ・観客席に車椅子席の確保

オ 屋根

- ・ライセンスB等級を満たす観客席を3分の1以上覆う屋根の設置。（別に定めがある「スタジアム検査要項」には、新設や大規模改修時には原則屋根は全ての観客席を覆うこととなっている）

カ 走幅跳走路

- ・日本陸上競技連盟第2種競技場更新のために2レーン増設

キ ピッチ延長

- ・現在のピッチ延長は107mあるがこれを1メートル削減（1種公認は107m認められている）

ク 風対策等

- ・陸上競技に影響する風の対策
- ・陸上競技のバックスタンド側フィニッシュライン用写真判定室の整備

ケ 改修コスト

- ・多額の費用確保
- ・2020年東京オリンピックや、東日本大震災の復興事業等で増大している建設コストの見極め

コ 助成金等

- ・totoの助成金は新設に限られる（1年10億円×3年が上限）ため、国の交付金（防災安全交付金等）等の活用

(2) 課題解決のために

改修検討会議では、これらの課題を解決するための方策について協議を行った。協議の中では主に次の改修方法が出された。

方法1 全面的な改修

方法2 必要最小限の改修

以上の内容で必要な改修項目及びコストを調査することとした。調査の結果次のような内容となった。

○方法1 全面的な改修

改修検討会議では、Jリーグにリーグが求める内容をすべて満たした改修プランの検討を依頼した。その主な項目としては、

- ・観客席20,000人程度で全席椅子席
- ・全席を屋根で覆う
- ・諸室も含めて全てJ基準を満たす内容にする

その結果、主な改修項目として次の点があげられた。

- ・観客席20,000人
- ・100%席を覆う屋根
- ・スタジアム基準をすべて満たす諸室
- ・メインスタンドに個室設置
- ・バックスタンドは2階席を設ける
- ・屋根の先端にLED照明設置

以上の改修を行うことで、改修費用としてはおよそ130億円が見込まれる。



※方法1の整備イメージ

○方法2 必要最小限の改修

Jリーグが提示した全面的改修とは別に、Jリーグが求める基準を最小限に満たす内容で改修を行った場合の改修項目及びコストの検討を委託した。主な内容としては、

- ・観客席は16,000～17,000人程度。
- ・諸室はJ基準を最低限満たす内容
- ・屋根は観客席の3分の1以上覆う
- ・立見席の活用（ただし、2017シーズンからアジアチャンピオンズリーグ等AFC主催大会の試合において立見席の使用は禁じられる）
- ・観客の安全が確保できるスタジアムとした。

その結果、主な改修項目として次の点があげられた。

- ・観客席は17,000人程度
- ・メインスタンドは、1階の諸室はJ基準を満たす
- ・現状のTV等放送ブースを拡張、同階に警察や消防の控室を設置
- ・サイドスタンドはコンコースのみの設置
- ・バックスタンドは中央部のモニュメントを撤去し座席の新設とともに、上部に座席を増設。さらに座席の一部を屋根で覆う

改修費用としては、およそ53億円～86億円が見込まれる。



※方法2の整備イメージ

5 ShonanBMW スタジアム平塚改修の方向性

改修検討会議では、検討された2案と次の項目に示された内容を、方向性を示す際の基準とした。

- ア 平塚市の財政規模をもとに判断すること
- イ 観客の安心安全を確保すること
- ウ 改修のスケジュールを示し、着実に実行すること

以上の点を踏まえ、改修の方向性を次のとおりとした。

方向性1 改修は、J基準、陸上競技基準を最小限満たす

方向性2 改修にあたっては、スタジアムをエリアに分割し改修時期をずらし、工期を遅れることなく着実に行う

方向性3 改修にあたっては施設を閉鎖せず、施設運営と並行して行う

6 改修スケジュール

改修スケジュールについては、改修規模によって工期が大きく変化するため、検討会議では具体的なスケジュールを示さない。

しかしながら、ShonanBMW スタジアム平塚の改修は、Jリーグや陸上競技大会の安定的な開催や利便性の向上のために、早急に対策をとる必要がある。

平塚市はJリーグ及び日本陸上競技連盟の基準を満たすよう助言を受けつつ、具体的な改修スケジュールを定め、早期の改修を着実に行うことを見越す。

7 サッカー等専用スタジアムについて

改修検討会議のなかでは、ShonanBMW スタジアム平塚の改修だけではなく、新たなサッカー等の専用のスタジアムについても議論がなされた。規模、コスト、観戦環境や運用面からの様々な議論のなかで、

- 1 建設ができる土地の確保が必要
- 2 陸上トラックが無いことによって観戦時の臨場感があがる
- 3 球技以外の集客が見込めるイベント誘致が可能となる
- 4 土地を購入しさらにスタジアムを建設することは財政的に厳しい
- 5 改修と変わらない費用で市内スポーツ施設が増える

などの意見が出された。コスト面では、仮にスタジアムを新設した場合、20,000人規模のスタジアム建設には、建設費で約80～100億円見込まれる。用地が確保されていない場合は、用地費がこれに上乗せされる。

以上の内容はあるが、この検討会議はあくまで ShonanBMW スタジアム平塚の改修を検討するものであり、将来的なサッカー等専用スタジアムについては、今後も協議を継続する必要があるとした。

8 おわりに

平塚市の財政状況が厳しい中ではあるが、サッカーや陸上競技は人々の健康で文化的な生活に必要である。特にサッカーの頂点にあるJリーグは、市民に質の高いスポーツ観戦の機会の提供することのみならず、平塚市のスポーツ振興にも重要である。平塚市において観るスポーツ、するスポーツを年代に関係なく多くの人が楽しむためにも、ShonanBMW スタジアム平塚の改修は必要不可欠なものである。今後も確実な改修の実行を望む。

9 資料

○ ShonanBMW スタジアム平塚改修検討会議設置要綱

(目的及び設置)

第1条 Jリーグ湘南ベルマーレのホームスタジアムで陸上競技の全国大会も開催されるShonanBMW スタジアム平塚は、建設から27年、大規模改修後20年が経過し、施設老朽化等の問題を抱えている。このためスタジアムの現状を検証し、改修に向けての方向性を明らかにするため、ShonanBMW スタジアム平塚改修検討会議（以下「改修検討会議」という。）を設置する。

(所管事務等)

第2条 改修検討会議は、ShonanBMW スタジアム平塚改修に係る情報収集、課題の整理及び改修の方向性の検討を行う。

(組織)

第3条 改修検討会議は、座長、副座長及び委員をもって組織し、別表に掲げる組織から推薦された者をもって充てる。

(座長及び副座長の職務)

第4条 座長は、改修検討会議を代表し、会務を総理する。

2 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときは、その職務を代理する。

3 座長及び副座長は、他に適当な職の者に対し、その職務を代理させることができる。

(改修検討会議の開催等)

第5条 改修検討会議は、必要に応じて座長が招集し、座長は会議の座長となる。

2 座長は、必要があると認めるときは、関係者に資料の提出又は出席を求め、その説明若しくは意見を聞くことができる。

(庶務)

第6条 改修検討会議の庶務は、都市整備部総合公園課において処理する。

(委任)

第7条 その他、改修検討会議の運営に関し必要な事項は、座長が別に定める。

附 則

この要綱は、決裁の日（平成26年7月18日）から施行する。

別表（第3条関係）

座長	平塚市都市整備部
副座長	平塚市企画政策部企画政策課
委員	平塚市体育協会
委員	平塚市陸上競技協会
委員	平塚市サッカー協会
委員	公益社団法人日本プロサッカーリーグ
委員	株式会社湘南ベルマーレ
委員	平塚市教育委員会社会教育部スポーツ課
委員	平塚市都市整備部総合公園課

○ ShonanBMW スタジアム平塚改修検討会議のあゆみ

開催日	開催場所	会議内容
H26.7.31	ShonanBMW スタジアム平塚役員室	スタジアム見学、他スタジアム改修事例発表、今後の進め方の意見交換
H26.9.26	平塚市役所 706会議室	ShonanBMW スタジアム平塚のあるべき姿、改修の方向性の検討
H26.12.24	平塚市役所 706会議室	ShonanBMW スタジアム平塚改修Jリーグ案の説明
H27.1.27	平塚市役所 720会議室	Jリーグ案を基に、改修の方向性の検討
H27.2.26	平塚市役所 719会議室	最小限の改修案の発表及び内容の検討
H27.3.25	平塚市教育会館 中会議室	報告書の編集と意見交換

○ Jリーグ クラブライセンス交付規則（抜粋）

第7条 [審査上の基準と等級]

(1) Jライセンスの交付に関する審査は、以下の5つの基準（以下「ライセンス基準」という。）について行われる。これらの各ライセンス基準は、J1クラブライセンスとJ2クラブライセンスとで求められる内容が異なることがある。

- ① 競技基準（第8章）
- ② 施設基準（第9章）
- ③ 人事体制・組織運営基準（第10章）
- ④ 法務基準（第11章）
- ⑤ 財務基準（第12章）

(2) 前項の各ライセンス基準には以下の3つの等級に分けられ、各等級の定義はそれぞれ以下のとおりとする。

① A等級

A等級基準はライセンス申請者による達成が必須のものである。ライセンス申請者によるA等級基準の未充足は、当該ライセンス申請者へのJライセンスの交付拒絶事由を構成するが、当該ライセンス申請者に対して本交付規則第8条に定める制裁は科されない。

② B等級

B等級基準はライセンス申請者による達成が必須のものである。ライセンス申請者によるB等級基準の未充足は、当該ライセンス申請者へのJライセンスの交付拒絶事由を構成するものではないが、当該ライセンス申請者に対しては本交付規則第8条に定める制裁が科され得る。

③ C等級

C等級基準は、ライセンス申請者による達成が推奨されるものであり、将来において、達成が必須のものと改められる可能性があるものである。ライセンス申請者によるC等級基準の未充足は、当該ライセンス申請者に対するJライセンスの交付拒絶事由を構成するものではなく、また、当該ライセンス申請者に対して本交付規則第8条に定める制裁が科されるものでもない。

第34条 [施設基準]

(1) 施設基準の目的は、以下のとおりである。

- ① ライセンス申請者が各競技会を開催可能な、安全で快適なスタジアムを有すること
- ② ライセンス申請者が所属選手の技術的スキルの向上に役立つ、適切なトレーニング施設を有すること